

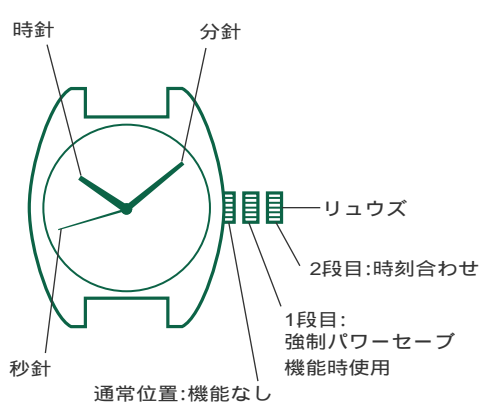
製品の特長

一般のクォーツ式の腕時計はボタン型電池で動きますが、KINETICは“時計を振る”ことによって内蔵された発電機が回され、発電した電気をキネティックE.S.U.に蓄えて時計を動かすというSEIKO独自の機構を持ったクォーツ時計です。従って、電池交換の必要はありません。蓄えた電気エネルギーを有効的に使うため、自動的または強制的に時計を止める「パワーセーブ機能」を備えています。次に使用する際に時計を数回振るだけで、正しい時刻で動きはじめる「自動時刻復帰機能」も搭載しています。フル充電状態でパワーセーブになった場合、最大4年後まで自動時刻復帰が可能です。

注意

- あなたの腕の動きを電気に変換して蓄える方式です。静止したままでは、充電されません。
- 目安として1日10時間以上の携帯をおすすめします。

各部の名称とはたらき

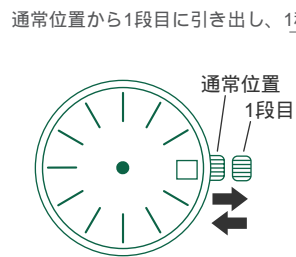


ご使用前にお読みください(各機能についての説明)

パワーセーブ機能とは
・この時計は、内部の発電機で作られた電気エネルギーを蓄え、時計を動かしています。時刻表示の必要がない場合、一時的に針を止め電気エネルギーの消費を最小限に抑える機能を備えています。これを「パワーセーブ機能」といいます。しかも回路内部では時刻を刻み続けています。
・この「パワーセーブ機能」には、自動的にこの状態に切り換わる「自動パワーセーブ」と、リューズ操作で行なえる「強制パワーセーブ」とがあります。
・このパワーセーブ状態で時計を数回振ると、刻み続けている時刻をすばやく表示します。これを「自動時刻復帰機能」といいます。
パワーセーブ中にリューズを2段階目に引き出すと、**パワーセーブがキャンセルされ、刻み続けている時刻もリセットされますので、ご注意ください。**リューズを2段階目に引き出している間は、パワーセーブ中よりも大きなエネルギーを消耗しますので、この状態での放置は避けください。

自動パワーセーブ機能について
・時計が静止した状態が約72時間(約3日)続くと、自動的にパワーセーブ機能がはたらきます。約72時間連続してまったく充電が行われない場合にのみこの機能がはたらきます。静止状態が長く続いても途中で発電機が回されるような状態になれば、その時点から連続3日間の静止状態が続かないとパワーセーブ状態にはなりません。秒針が2秒運針している場合は、自動パワーセーブ機能ははたらきません。
・自動パワーセーブがはたらくと、すべての針が止まります。

強制パワーセーブ機能について
・約3日間の静止状態を待たずに、強制的にパワーセーブに入れることができます。
・リューズの特操作(下記)で強制的にパワーセーブ状態にできます。
通常位置から1段階目に引き出し、また通常位置(0段階目)に戻す。この操作を1秒以内に行う。

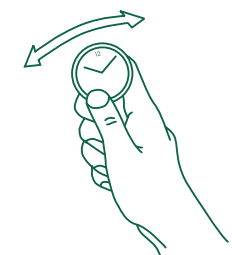


強制パワーセーブ状態になると、すべての針が止まります。
秒針が2秒運針している場合、強制パワーセーブ機能ははたらきません。リューズが引き出せない(ネジロック式リューズ)モデルはリューズを左に回してネジをゆるめてから、上記の操作を行ってください。リューズを通常位置に戻したあとはリューズを押しつけながら右に止まるまででネジ込んでください。リューズを1段階目に引き出したままにしますとエネルギーの消耗が大きくなりますので、この状態での放置は避けください。

起動のしかた(パワーセーブ状態から目覚めさせるには)

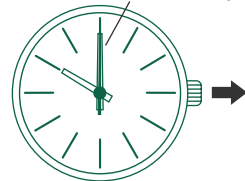
- 自動パワーセーブ状態または強制パワーセーブ状態で、止まっているように見える時計を目覚めさせるには手振りによる充電が必要です。
以下の操作の前に、リューズを2段階目に引出さないでください。自動時刻復帰機能がキャンセルされます。

時計を下図のように矢印の方向に振ってください。約2~3秒間振り続けてください。



約20cm位の距離1秒間に2往復のリズムで、4~6回振ってください。長く、強く振る必要はありません。発電機を回す音が聞こえますが異常ではありません。

秒針は止まったままです。



止まっていたように見える時計が目覚め、まず最初に時分針だけが早送りして回路が記憶している時刻を示します。



時分針が早送りして合った後秒針が早送りして合います。以後は通常運針になります。

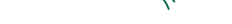
この時、下記の項目についてご注意ください。

- ご購入後初めてご使用になる場合、工場出荷時に合わせてある時刻とお使いになる地域との時差がありますので、「時刻」を合わせ直してください。
- パワーセーブ中、時刻を刻む精度は一般のクォーツと同じです。自動時刻復帰機能がはたらき表示された時刻は若干ずれる場合もありますのでご注意ください。必要に応じ時刻を合わせ直してください。
- 秒針が2目盛りずつ運針する「2秒運針」で目覚めた場合は、電気エネルギーがほぼ無くなっている状態です。(「2秒運針になったら」を参照ください)

2秒針運針になったら(秒針が一度に2目盛りずつ運針する状態)

- 携帯中または外してある時計が2秒運針になると、12時間以内に時計が止まる可能性があります。
- パワーセーブ状態から時計を起動した際、2秒運針で動きはじめた場合は、ほとんど電気エネルギーが無くなっている可能性があります。
- 以下の「充電のしかた」に従い、充電してください。

充電のしかた
①時計を下図のように矢印の方向に振ってください。1秒間に2往復のリズムで、約500回(往復)振ってください。この方法で充電すると、2秒運針から通常の1秒運針になります。振り終わっても秒針が2秒運針のままの場合は、1秒運針になるまでさらに振り続けてください。振り終わったら、1秒運針になっていることをご確認ください。



1秒間に2往復の早さで、約20cm位の距離を往復させるように振っていただくと、最も効率的です。**極端に早く激しく振っても効率の良い充電はできません。**発電機を回す音が聞こえますが、異常ではありません。

②さらに振り続けて1日分程度の充電をしてから携帯することをお勧めします。目安として約200回(往復)の手振りで、1日分の充電量の追加ができるとお考えください。ご使用前にフル充電にしていたいただく必要はありません。

この時計は工場出荷時にフル充電状態にされています。この状態でパワーセーブになった場合、最大4年間回路内部では時刻を刻み続けていますので、手振りによる充電の必要はありません。しかしながら、もし、お使いになる際に2秒運針になっていた場合、「2秒運針になったら(秒針が一度に2目盛りずつ運針する状態)」の手順に従い、充電して下さい。

上手な携帯をするために(充電量のめやす)

- 「あとどのくらいの期間自動時刻復帰が正しく機能するか」を知ることはできません。
- 普段の携帯状況から充電量を予測していただくことが必要になります。
- 必要に応じ、強制パワーセーブ機能をお使いいただくことも有効となります。

<普段の携帯時間(日数)と充電量の関係について>

1日携帯(12時間携帯)で、約1.5日分の追加充電が可能とお考えください。

例.ほとんど毎日携帯される方の場合

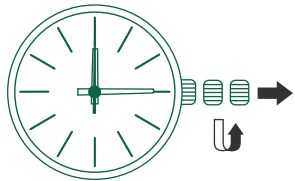
1日12時間の携帯を1週間続けると、時計を約10日間動かすエネルギーが追加充電されます。また、パワーセーブ状態で換算すると約2ヶ月分のエネルギーとお考えください。ほぼ毎日携帯される方は、強制パワーセーブ機能をお使いいただく必要はありません。

<携帯時間(日数)が少ない方へ>

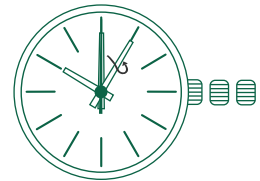
前項の「例」のように携帯せず、携帯する日数よりも外しておく日数が多い方が多いはず。基本的には、「起動のしかた」に従い、手振りによる起動をしてから携帯することになります。3日後の自動パワーセーブを待たずに、時計を外される際には「強制パワーセーブ」を積極的にお使いいただくことをお勧めします。

時刻の合わせかた

- 時計が動いてから、時刻の合わせをしてください。
ご購入後ご使用になる前に、時刻を合わせ直してください。
時刻の合わせかた



①秒針が12時(0時)位置にきたら、リューズを2段階目まで引き出してください。リューズが引き出せない(ネジロック式リューズ)モデルはリューズを左に回してネジをゆるめリューズを2段階引き出してください。(秒針が止まります。)



②リューズをまわして針を合わせてください。クォーツは機械時計と機構が異なりますので時計の構造上、分針を合わせる時刻より一旦4~5分進めてから逆にもどすようにして合わせてください。時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。



③時報と同時にリューズを押し込んでください。(ネジロック式リューズ)モデルはリューズを押しつけながら右に止まるまででネジ込んでください。

使用電源について(キネティックE.S.U.)

- この時計は一般の電池の代りに専用のキネティックE.S.U.を電源として使用していますので、電池交換は不要です。
- キネティックE.S.U.は、環境に対して影響の少ないクリーンなものです。

警告

破裂、発熱、発火などの恐れがありますので、一般の銀電池は絶対に組み込まないようご注意ください。